証②

私は幼いころから音楽が大好きで、今まで一度も音楽が嫌になることはなく中学校生活に入ってもそれは変わることはありませんでした。小学校中学年のころから今まで合唱も体験してきて音楽という大きなスケールから歌へと焦点を定めることができた私は、自分の歌声で人々の心を動かし、笑顔にさせたいという思いを抱き始めていました。それからは音楽関係の習い事にも熱が入り、より一層自分の歌声、表現力を磨こうと頑張っていました。

そんな日々を送っていた私に転機が訪れました。習い事で、東京で音楽の教諭をなさっている先生に歌のレッスンをしてもらった時に「あなたは音楽の才能に恵まれているから将来この才能を生かしていってほしい。」と言われたのです。この時私は二つの感情が沸き起こりました。今の自分の力量をほめてもらえたことによるうれしさ、高揚感があったのと、仲がいい友達と離れるのは嫌だという辛さ、苦しさがありました。この両方の感情に悩まされた私は胸が圧迫されたように妙に息苦しくなって、そのうち「私なんてまだまだ未熟で、才能なんてものもないのに。こんな苦しい気持ちに悩まされるのだったら、もういっそのこと才能なんてなくなってしまえばいいのに。」とネガティブな感情ばかりこみ上げ、何事も手つかずになり、進路も決まらず、ひたすら八方塞がりの状態に陥っていました。そんな時ある聖句が私を絶望の淵から救ってくれました。その聖句は、ペトロの手紙一4章10節の「あなたがたはそれぞれ賜物を授かっているのですから、神の様々な恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。」というものでした。私はこの聖句に会って、イエス様は常に私を見守っていてくださり、どんな困難に陥ったとしても救ってくださるのだと感動し、そして安心しました。

この聖句がきっかけとなり、私は再び絶望の淵から立ち上がることができました。自分の道は他者に導いてもらうのではなく自ら切り開いていくべきだ。今は自分の道でいうところの岐路なのだからここで踏みとどまっている場合ではない、と自分の将来に対して前向きに考えられるようにもなりました。

私の将来の夢は人々の心に響き、癒すことができて、心が苦しい人もそうでない人も笑顔にするソプラノ歌手になることです。その夢をかなえるために、イエス様が常に自分を見守ってくださり、つらいことがあれば背負い救い出してくださるのだということを忘れず、日々イエス様とともに人生の道を歩んでいきたいです。